

廃校になった高校体育館を市庁舎へリノベーション(富山県氷見市)

取組概要

廃校になった県立学校の体育館をリノベーションし、市庁舎として再利用した。工事は必要最低限の改修としながら体育館の特徴であるワンフロアを生かしたデザイン性の高い庁舎とした。また、天井幕を設置することにより空調効率や採光に配慮した。

人口 49,589人

担当 総務課

取組の効果

市は建築費用を低く抑えるとともに、県は不要となった施設の取り壊し費用を抑えて売却できることにより、費用の抑制と施設の有効活用が可能になった。

創意・工夫した点

体育館の特性を活かして、1階に市民課等の市民生活に密着した4課をまとめて配置し「ワンフロアサービス」を実現。

他団体へのアドバイス

廃校の利活用にあたり、荷重制限などの条件を把握し、追加工事等の費用も考慮し、費用対効果を見極める必要がある。



リノベーション後の市庁舎



上：天井幕のある2F 下：ワンフロア1F